

令和5年度 第4回沖縄県がん診療連携協議会 医療部会議事要旨

日 時：令和6年2月7日(水) 16:30~17:30

場 所：Zoom を利用した Web 会議

参加者：7名

有賀拓郎(琉球大学病院)、伊江将史(県立中部病院)、照屋淳(北部地区医師会病院)、野村寛徳(琉球大学病院)、外間早紀子(沖縄県保健医療部健康長寿課)、松村敏信(県立八重山病院)、増田昌人(琉大病院がんセンター)

欠席者：3名

安次嶺宏哉(沖縄協同病院)、川満博昭(県立宮古病院)、宮里浩(那覇市立病院)

陪 席：1名

西佐和子(琉大病院がんセンター)

【報告事項】

1. 令和5年度 第3回医療部会議事要旨について

野村部会長より、資料1に基づき、第3回医療部会議事要旨について説明があった。各自確認し、要望や意見等があれば、がんセンターに連絡するようにとのことだった。

2. 沖縄県がん診療連携協議会部会の申合せの確認について

野村部会長より、資料2に基づき、部会の申合せについて説明があった。

3. その他

特になし。

【協議事項】

1. 第4次沖縄県がん対策推進計画(協議会案)における所掌分担について

増田委員より、資料3-1、3-2に基づき次年度の協議会活動の重点事項、当部会が所掌する分野について説明があった。

2. ロジックモデルを用いたの次年度の活動計画について

増田委員より、資料4に基づき医療部会独自のロジックモデルについて説明の後、協議に移った。

個別施策④手術療法

- 初期アウトカム1「必要な資格を持った専門家を計画的に養成」について、まずは現状を把握し、専門医の必要人数の目標を定める。それを協議会に提出し、最終的には県に意見書を提出。または専門医を養成できる病院に対して提言書を出す。場合によって

は、県で予算をつける等お願いすることになる。

- ベンチマーク部会で、過去5年、10年程度の専門医の数の変遷やがん患者の数、修練施設に認定されている施設数などを調査する。もし可能であれば、修練施設に手紙を出して問いあわせると、今年、来年ぐらいに専門医がひとり養成できるかどうかまでは分かるのではないか。それを調べれば、ディスカッションに足りうるデータになる。

個別施策⑤放射線療法

- 初期アウトカム1に関して、④手術療法とほぼ同じような形でデータを出し、現状を把握する。

個別施策⑥薬物療法

- 各病院にどれくらい腫瘍内科医がいるのか。外科医と腫瘍内科医がどれぐらいの割合で化学療法を行っているのか等の現状調査を行う。

その他の個別施策について

- ④手術療法⑤放射線療法⑥薬物療法の3療法以外の分野で、部会として取り組む施策を各自考えていただいた上で、がんセンターに連絡ください。

3. 所掌分担領域の進捗・評価について

増田委員より、進捗・評価について説明があった。ベンチマーク部会が指標を出すので、医療部会として進捗状況を把握していただくと同時に、うまくいっているのか、そうではなさそうなのかを検討する。指標が出ないのは検討のしようがないため、検討できなかった旨のレポートを出していただくことになる。最終的には部会長から協議会で報告をしていただきたいとのことだった。

また、④手術療法⑤放射線療法⑥薬物療法の3療法に関しては、次回の部会までに、まずは直近のデータを必ず出す。3つの初期アウトカムに関しては掲示的なところが終える形をとって、提示できればと考えている。3療法以外についても指標を出せるところは出しますとのことだった。

4. 次回の開催日程について

野村部会長より、事務局より日程調整のお知らせをするとの説明があった。

5. その他

特になし。